

令和 3 年度

教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書

令和 4 年 9 月

吉備中央町教育委員会

I はじめに

このたび、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行いましたので、その結果に関する報告書を作成し報告いたします。

II 点検及び評価の方法等

1 対 象

令和3年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

2 報 告

令和4年9月議会に提出

3 方 法

「施策」は、吉備中央町総合計画の重点施策に掲げている主な取組

「施策の内容」は、施策に係る具体的な取組内容や状況を記載

「成果と課題」は、実施した取組の成果と課題を記載

「評価」は、達成度についての内部評価を記載

A・・・十分な成果を得た

B・・・概ね成果を得た

C・・・成果もあったが、改善が必要

D・・・満足の得られる成果が見られず、事業の見直しが必要

E・・・事業の中止、廃止

4 公 表

教育委員会事務局での閲覧

町役場の掲示場に掲示及び町ホームページでの公開

Ⅲ 教育委員会の組織及び活動

1 教育委員会の教育長及び教育委員

職 名	氏 名	性別	任 期
教 育 長	石井 孝典	男	R 3. 4. 1 ～ R 6. 3. 31
教育長職務代理者	前田 文男	男	H30. 10. 30 ～ R 4. 10. 29
委 員	禰元 幸治	男	R 1. 10. 30 ～ R 5. 10. 29
委 員	佐藤 節子	女	R 2. 10. 30 ～ R 6. 10. 29
委 員	沼本 聖子	女	R 2. 10. 30 ～ R 6. 10. 29

2 審議案件

開催日	主な議決・報告等事項
4月28日	規則改正、育英資金の承認、魅力ある学校園を考える会等
6月30日	規則改正、就学援助の認定、区域外就学等
8月11日	奨学金の免除認定、就学援助の認定、区域外就学等
9月15日	学力・学習状況調査結果、規則改正、育英資金の貸付等
10月20日	総合教育会議（小学校及び園の統合のあり方の指針等）
11月17日	規則改正、区域外就学等
12月15日	教育支援委員会審議結果、小学校・園統合再編基本計画等
12月22日	区域外就学
1月19日	小学校・園統合について、就学援助の認定、規則改正等
2月22日	育英資金の承認、区域外就学、規則改正等
3月 9日	令和4年度予算、学校人事、規則改正等

3 研修会等

開催日	研修会等
7月15日	中国地区市町村教育委員会連合会研修大会（ZoomによるWeb会議）
11月29日	岡山市市町村教育委員会研修会（ZoomによるWeb会議）

4 学校訪問

開催日	学校
5月24日	吉備高原小学校、加賀中学校
6月4日	上竹荘小学校、豊野小学校
6月8日	円城小学校、御北小学校
6月10日	津賀小学校、下竹荘小学校
7月6日	吉川小学校、大和小学校
10月5日	吉川小学校、大和小学校
10月22日	吉備高原小学校、加賀中学校
11月9日	上竹荘小学校、豊野小学校
11月10日	津賀小学校、御北小学校
12月2日	円城小学校、下竹荘小学校

5 会議の運営等

本町の教育委員会は、定例会を年10回、総合教育会議を1回開催しました。会議は、全員が出席し、毎回十分な時間を掛けて審議及び協議を実施しました。内容としては、教育行政の重点目標及び施策、人事、予算、就学、教育課程、学校の様子、学力状況等、多くの議題について検討され、慎重に審議しました。

教育委員は、県の研修会等に参加して識見の向上に努めています。また、町内小中学校を訪問し、教育活動を参観することで、現状の把握をし、取り組みの成果や課題を協議しております。

住民の意向や地域の実情に応じた教育施策となるよう、学校教育及び生涯学習の両面で今後一層工夫や改善に努めていきます。

IV 教育委員会が管理執行する事務

1 基本的・総務的事務

町では、第2次吉備中央町総合計画基本構想・後期基本計画（令和3年度～令和7年度）を策定し、「22世紀の理想郷（ふるさと）吉備中央町」を将来像に掲げ、「子どもたちの笑い声があふれる懐かしく新しいふるさとの創造」の実現を目指し、町民と行政が知恵と力を出し合い、共に協力してまちづくりを進めております。その計画のなかで、教育委員会では、「教育環境の充実」を目標として取り組んでおります。

「町の将来を担う子どもを増やす」を重点プロジェクトに、①妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援、②教育環境の整備、③生涯学習の充実、④スポーツ・レクリエーション活動の充実、⑤青少年の健全育成、⑥地域文化の育成を目標に取り組んでいます。

子どもたちの教育環境の充実のため、令和元年7月26日に「吉備中央町立小学校等に関する検討委員会」に町長からの諮問を受け、審議が行われ、令和2年3月17日に答申が出されました。この答申を受け、令和3年1月26日から「魅力ある学校・園を考える会」において、本町の未来を担う子どもの育成のためには、どのような新しい教育環境の整備が必要なのかを協議し、令和3年10月8日に「小学校及び園の統合のあり方についての指針」を受け、令和7年4月に町立小学校を9校から3校に統合することが決定しました。今後は、「町立小学校・園統合準備委員会」において、統合に向けた具体的な準備を進めてまいります。

2 人的管理に属する事務

本町の教育委員会は、教育総務班、生涯学習班が教育行政の基本方針や規則等の策定、制定、改正の原案を提案し、教育委員会において協議や審議をし、具体的な教育施策を推進してきました。

町立小・中学校教員の県費教職員の人事については、岡山教育事務所と連携を図りながら複式解消に向けた配置要望、課題である学力向上や問題行動の解決に向けた学校組織の強化に努めています。

また、個々の教職員の指導力向上を図るために、校内外における研修等、多方面にわたって研修しております。学校運営に関しては、各校と町教育委員会が連携を図りながら、必要に応じて支援することと、学校長に対しては、必要な連絡、指導助言をしています。

また、GIGAスクール構想の推進として、児童生徒に1人1台のタブレットを配布し、積極的な活用を図るとともに、ルールづくりや教職員研修、環境整備等を進めることで、効果的な学習環境や、教職員の働き方改革に期待できます。

特別支援教育については、教育支援委員会の判定状況から特別な支援を要する児童、生徒の増加が見込まれ、特別支援教育を充実させるための体制づくりを図っています。県費負担教員の配置基準による教職員だけの指導が困難な場合、学校運営を円滑にするために町費による教育支援員の配置に努めています。

V 主要事業の報告

(1) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 子どもが安心・安全に過ごせる環境整備			B
子どもの居場所づくり	○放課後の子どもたちの居場所として、小学校や地域住民と協働した「放課後子ども教室」で遊びや学び、体験活動、交流活動等を行うなど、子どもたちに安全・安心な居場所を提供します。 ○学校と公民館の連携による、子どもたちの学習の場、安心・安全に活動できる居場所の提供を図ります。	・大和放課後子ども教室(61名)、御北放課後子ども教室(20名)では、平日を中心に小学校等で開設され、多くの地区民の方に支えられながら子どもたちに安全、安心な居場所を提供しました。 ・公民館で習字教室を開催し、居場所づくりを図りました。	
(2) 教育・保育の質の向上			B
教諭の資質向上	○就学前教育アドバイザーの配置により、育てるべき力や保育のねらいなど就学前教育の共有を図り、小学校との連携、接続をスムーズに行います。	・公開保育研修会へ小中学校教職員が参加し、就学前教育と義務教育との連携や円滑な接続について研修しました。	
(3) 支援が必要な子どもや保護者への対応			B
障害児施策の充実	○家族や地域、関係機関との連携等により療育体制の整備に努めます。 また、乳幼児期から学齢期まで切れ目のない一貫した支援を行うため、共通支援シートを活用し、関係機関との情報連携を強化します。	・入学児童に関する園と学校の情報共有を関係機関と連携しながら、共通支援シートを活用して行い、支援体制の強化を図りました。	
子どもの貧困対策	○子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るなど子どもの貧困対策を総合的に推進します。	・経済的理由によって就学が困難な児童、生徒で、町内に在籍する小学生、中学生を対象に、就学援助制度により学校用品購入費等を81名の方に支給しました。	B

(2) 教育環境の整備

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 生きる力を育む教育環境の整備			
教育内容の充実	○「知・徳・体」のバランスのとれた生きる力を育むために、町独自の学力調査を実施し、児童生徒の課題の把握に努めるとともに、支援員を配置し放課後学習サポートを推進します。	- 町独自の学力調査やGIGA スクール構想実現に向けた ICT 機器の効果的な活用を推進し、教員の授業力向上に向けた取組を進めました。 - 放課後学習サポートを実施し、また個に応じた学習支援を実施しました。	B
教職員の資質向上	○吉備中央町教育研修所の基本方針に基づいて、成果の上がった取組や事例の情報共有を図り、教師の教育技術の向上を推進します。 ○英語学習やプログラミング教育など専門性の高い教育の質の向上を図ります。	- 吉備中央町教育研修所小中合同研究部会において、各校の学力向上に関する取組状況の確認と好事例について共有しました。 - 研究指定校の上竹荘小学校において授業力向上に向けた研究を進め、授業公開を実施しました。 - ALT3 人体制で、生きた英語による学びを深める機会を創出しました。 - 小学校算数の学習で、正多角形をプログラミング教材を用いて作図し、ICT 機器の活用を進めました。	B
学校施設整備の推進	○ICT 教育に対応するよう、各教室で利用できるタブレットを配置するなど、学習機器の充実を進め、学習しやすい環境整備を推進します。	- 小中学校全員に学習者用タブレット端末を配備し、活用を進めました。 - ICT 支援員とヘルプデスクによるサポートを充実させ、ICT 機器の有効活用を進めました。	A
国際教育の推進	○英語教育の充実に向けた環境整備や教職員への研修の実施を図り、「見る」「聞く」「書く」「話す」等の技能の向上を推進します。	語学指導等を行う外国青年招致事業「JET プログラム」で ALT(外国語指導助手)を3名任用し、授業を行いました。ALT との英会話を通して、英語を聞いたり話したりする力が身につきました。	B

施策	施策の内容	成果と課題	評価
相談体制の充実	○スクールソーシャルワーカーを全小中学校に配置し、児童生徒への支援を進めるとともに、教職員の指導への助言も行います。 ○いじめ問題の実態について関係者での情報共有を図るとともに、教育相談やアンケートの実施によるいじめ問題の未然防止に取り組みます。 ○スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、子どもの相談に対するカウンセリング機能の充実を図ります。	・スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）を全校に配置し、長期欠席や不登校等の特別に支援を要する児童、生徒への対応や家庭支援を行いました。 ・児童生徒へのカウンセリングや教職員への助言を行い、学校の教育相談体制の強化を図りました。 ・各校で教育相談やアンケートを実施し、いじめ問題の未然防止、早期対応を図りました。 ・SC、SSW を全校に配置するとともに、必要に応じて時間の増加配分を行いました。	B
(2) 家庭や地域の教育力の向上			
家庭における教育力の向上	○家庭学習強化週間を重点に、子どもたちの生活習慣と学習習慣の定着を促すとともに、親育ち応援プログラムの実施促進を図り、家庭の教育力の向上を図ります。	・中学校の試験週間に合わせて、家庭学習強化週間を実施しました。宿題の出し方等を工夫した取り組みを各校で進め、好事例を共有しました。	B
地域における教育力の向上	○地域の豊かな自然や伝統文化を学ぶ機会を通して、地域住民による学習支援や体験活動の指導の促進を図ります。 ○学校評議員による教育内容の改善に向けた意見交換や地域学校協働活動を	・社会科や総合的な学習の時間の学習において、地域の方から学ぶ活動を実施し、町内の文化や伝統に触れる学習を実施しました。 3・4年生社会科副読本「岡山県のみんこ中吉備中央町」による郷土学習を進め、地域見学等も実施しました。 - 副読本は、郷土学習資料の充実へ向けて、教育研修所社会科部会で改訂しました。 ・学校評議員会を各校で開催し、学校が抱える課題や取組方針等	A

施策		施策の内容	成果と課題	評価
		展開し、学校・家庭教育支援の取組を推進します。	について協議するとともに、地域住民の協力を得て、学校と地域の協働による登下校の見守り、本の読み聞かせ、芋堀り体験等の活動を実施しました。	
(3) 子どもの安心・安全の確保に向けた環境づくり				B
	通学路等の危険箇所の解消	○地域や保護者と協力して、通学路等の危険箇所の確認や解消に取り組みます。	・PTA が通学路を点検し、危険個所の要望書を提出され、早期解決に向けて関係機関に要望しました。	

(3) 生涯学習の充実

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 生涯学習と地域コミュニティの形成			B
学習機会を通じた地域の絆の再構築の推進と地域課題の解決に向けた取組	○ライフステージに応じたパソコン講座等、多様な学習機会の充実を図るとともに、学習機会を通じて、地域のリーダーとなる人材の育成も促進します。 ○人口減少、少子高齢化社会の進行に対応できるよう公民館の在り方や団体・サークル活動のネットワーク化を推進します。	・公民館でパソコン教室やスマホ教室、各種講座を実施、学習の充実を図りました。 ・新型コロナウイルス感染症より、多くの公民館行事が中止となりましたが、感染状況に注意しながら、文化祭など工夫して行事を実施しました。	
(2) 学習環境の充実			B
ライフステージ等に応じた学習環境の整備	○ICT を活用した児童生徒の家庭学習の充実を図ります。 ○図書館の蔵書の充実と知的好奇心を満たすための講座開催や、新たな本との出会いにつなげる場所づくりを図ります。 ○公営塾で放課後の学習時間を確保することにより、学力の底上げを図り、自ら課題を見つけ、将来について考える力を養うなど、人間力の向上を目的としたカリキュラムの開発を進めます。	・タブレットを家庭に持ち帰り、タブレットドリルの教材で宿題をしたり、家庭と学校とをリモートでつないでコミュニケーションを図りました。 ・図書館は開館 10 周年を迎え、講演会を開催しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で多くのイベントが中止になりました。(表 1 参照) 新たな本との出会いの場として、3 歳 6 か月児健診のあとに、親子で図書館に来られた方に絵本をプレゼントする事業を始めました。 ・下竹荘公民館で、地域おこし協力隊員が月曜日から金曜日の放課後、英語と数学を教えており、1 年生が 25 名、2 年生が 28 名、3 年生が 31 名の生徒が塾に通いました。 学力向上に加え、探求学習や人間力の向上に向けて、妙本寺での特別授業等地域の特色を生かして取り組みました。	

表 1 (図書館の状況)

日時	イベント名	内容	備考
4月～	新山山の学校出前	月に2回出前図書(移動図書館)	開催
4月～	円城ももカフェ出前	月に2回出前図書(移動図書館)	開催
4月～	吉備高原北部住区コミュニティ出前	月に2回出前図書(移動図書館)	開催
4月～	おいでおいで	乳幼児への読み聞かせ	開催
4月17日	絵本とうたのおはなし会	歌と読み聞かせ	開催
5月26日	皆既月食をみよう	津賀公民館と共催で皆既月食の観察会	中止
7月17日	体験ブッククラブ①	切って結ぶだけ!フェルトのバッグ	開催
8月 8日	こども読書フェスティバル	絵本作家さんのワークショップ レインボーさんのおはなし会	開催
夏休み	むかしばなし絵本プロジェクト	町のいいところや100年後の未来の絵を描いてもらうコンテスト	開催
10月10日	銀河café	おはなしやの朗読会	開催
10月24日	恐竜の化石って?	岡山理科大学恐竜学博物館の講演とワークショップ	開催
11月 3日	図書館開館10周年記念講演会	朗読・語り・落語の三部作	開催
12月18日	体験ブッククラブ②	ガチャガチャをつくろう!	開催
1月23日	福福来来	どんぶらこの語り	中止
2月 6日	郷土資料保存講座	郷土資料の保存の仕方を学ぶ	中止
3月 5日	朗読日和	ゆう&ゆうさんの朗読会	中止
3月12日	体験ブッククラブ③	南極クラス	中止

(4) スポーツ・レクリエーション活動の充実

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 生涯スポーツの振興			
ニュースポーツの普及	○ニュースポーツの普及を図り、生涯スポーツを定着させるため、人材の発掘・育成に努めます。	・ニュースポーツの備品を定期的に小学校などに貸し出し、体験を通して、普及、定着に取り組みました。	
団体・組織の育成	○事務手続きなど利用団体の負担の軽減を進めるとともに、人口減少に対応した団体・組織の運営を検討します。 ○若年層から参加できる指導者育成に努めます。	・新型コロナウイルス感染症により行事等が中止となり、団体、組織に関する運営・育成ができませんでした（表2参照）。	
大会等への参加者数の増加	○新たな参加者を得るため大会の規模・日程等の開催内容を検討するとともに、多くの町民が参加できるよう広報に努めます。	・新型コロナウイルス感染症により行事が中止となりましたが、新たにスポーツ絵画・絵手紙コンクールを開催しました。	B
(2) スポーツ施設の充実			
計画的な修繕	○計画的な修繕等を行い安全で快適なスポーツの場の提供を図ります。	・加茂川地区、賀陽地区それぞれのスポーツ公園で野球場の照明や体育館の施設等を修繕しました。	

表2

日付	行事	開催状況
5月19日	東京2020オリンピック聖火リレー	中止
6月13日	第15回吉備中央町ソフトボール及びバレーボール大会	中止
7月11日	吉備中央町スポーツフェスティバル	中止
8月28日	吉備中央町バレーボール教室	中止
10月10日	第34回吉備高原車いすふれあいロードレース	中止
1月30日	第11回「晴れの国岡山」駅伝競走大会	中止
2月13日	第12回吉備中央町早春マラソン大会	中止
3月	野球教室	中止
8月～2月	スポーツ絵画・絵手紙コンクール	開催

(5) 青少年の健全育成

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 青少年の健全育成活動の促進			B
青少年健全育成活動の充実	○各種のスポーツ少年団活動や文化活動、ボランティア活動、ちびっ子チャレンジ教室等の体験活動を充実させ、青少年がさまざまな活動ができるよう計画的に推進します。 ○中学生のヤングボランティアの力が十分発揮できる場を提供します。	・吉備中央町小学6年生みんなの絆づくり事業をコロナ禍で見直し、国立吉備青少年自然の家で60名の参加により日帰りで実施しました。 ・ちびっ子チャレンジ教室を年7回開催し、多数の小学生が参加しました(表3参照)。中学生もヤングボランティアとして参加し、40名の方々が運営をサポートしてくれました。	
青少年相談員連絡会の充実	○青少年の健全育成を推進するため、青少年相談員連絡協議会等の組織の活性化を図るとともに、相談員の質の向上を図ります。	・新型コロナウイルス感染症により、会議がほとんど中止となりましたが、各家庭を結びオンラインで協議会を開催し、講演の視聴、相談員の活動について意見交換し、見聞を深めました。	B
(2) 各種機関との連携の充実			B
家庭・地域・学校との連携	○地域ぐるみで子どもを育てるよう地域学校協働本部を中心とした家庭・地域・学校の連携を継続するとともに、多様な関係者(保護者、教職員、地域住民等)が集まり、課題解決を目指す「熟議」によって、より連携を深めます。	・令和4年度からのコミュニティスクール導入に向けて、各学校と地域で協議を行いました。令和4年度からすべての小学校で導入予定です。	
相談体制の充実	○青少年相談員制度の周知を図り、保護者や子どもたちが悩みなどを相談できる体制を整備します。	・広報きびちゅうおうへの掲載や、各学校でチラシを配布し、制度の周知を図りました。	B

表 3 (ちびっ子チャレンジ教室)

日付	内容
6月26日	ブルーベリー狩りとジャム作り！
7月31日	フラワーリースを作ろう！
9月25日	ニュースポーツに挑戦！！
10月30日	縄跳びの達人になろう！
11月27日	イルミネーションツリーを作ろう！
12月18日	火おこし体験とふわふわケーキを作ろう！！
2月 5日	イルミネーションツリーを作ろう！

(6) 地域文化の育成

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 文化財などの保存・継承			
文化財の保存・活用の仕組みづくり	○町「文化財保存地域活用計画」を策定し、町全体で文化財の保存・活用する仕組みづくりを行います。	・町内の文化財の現況を確認し、策定に向けて情報を収集しました。	
町文化財の把握促進	○地域の指定・未指定の文化財の把握に努め、資料のデジタル化を促進します。	・デジタル化に向けて台帳の整備を引き続き検討しました。	
町文化財資料の活用	○学校や公民館等での学習機会を増やし、それら学習機会への積極的な資料提供により、授業・体験に活用していただきます。	・学校の校外学習で、お祭り会館、古墳の見学など、直接目で見て体験できる授業を積極的に実施しました。	
無形民俗文化財の保存・継承	○無形民俗文化財の周知や担い手の育成など、伝承活動に取り組んでいる団体へ引き続き支援を行い、地域に伝わる伝統芸能の保存に努めます。 ○伝承活動している団体にご協力いただき、次の世代を担う子どもたちに学校や公民館の学習の場で地域の文化を継承します。なお、その活動を通して子どもたちの郷土愛だけでなく、地域の大人たちとの関わりの中で社会性や自主性を育むことが期待されます。	・県指定無形民俗文化財の備前加茂大祭、吉川八幡宮当番祭、川合神社だし献燈祭は、新型コロナウイルス感染症により、規模は縮小したものの、地域の文化を伝承支援していけるよう、必要な支援を引き続き実施しました。	C
(2) 地域文化の育成			
各種団体への支援	○町文化協会や公民館等の文化芸術活動を、広く町民に周知します。 ○各種団体の発表の場を提供し、活動の機会を増やします。	・新型コロナウイルス感染症により、総合文化祭をはじめ各種活動は中止となりましたが、各公民館の文化祭は、展示物を中心に実施しました。また、各種サークル活動への支援も継続実施しました。	

施策	施策の内容	成果と課題	評価
学校での文化芸術鑑賞の機会の提供	○各学校に国や県の事業情報を提供するとともに、周知の方法を工夫することで、児童生徒の鑑賞の機会を確保します。	・岡山県の文化芸術による子ども育成総合事業（芸術家派遣事業）で、講師を招いてパーカッションを公演しました。	B

VI学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項に基づき、中国学園大学・中国短期大学副学長兼国際教養学部長の杉山慎策氏、元町立小学校校長宇野和行氏に点検及び評価に関しての助言及び意見をいただきました。

○中国学園大学・中国短期大学副学長兼国際教養学部長 杉山慎策氏

令和3年度における吉備中央町の教育行政については、コロナ感染症の蔓延など、予期せぬ外部要因によりその活動について多大の影響を受けましたが、全般的には主要な事業は、ほぼ実施され成果をあげられていると評価します。

しかしながら、結果を客観的に評価し、町民全員に開示し、参画を求めるためには、それぞれの主要事業項目について数値目標を設定することが望ましいと考えます。

(1) 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援について

次世代につなぐためには、この支援が一番重要と考えます。子供たち一人一人に寄り添って次の世代を育てて欲しいと思います。

(2) 教育環境の整備について

小中学校の児童生徒全員にタブレット一台を配布したことは、重要な成果だと思います。継続してその活用を指導していただければと思います。また、「岡山県のまん中吉備中央町」による郷土学習についても、平安時代の「続日本紀」にも本町にとって誇りとすべき記事が記載されており、郷土への愛着を醸成するためにも必要不可欠な取り組みと考えます。

(3) 生涯学習の充実について

是非こどもの世代だけのICT教育ではなく全世代のICT教育を推進していただければと思います。また、都会と比べ不利な立場にある生徒に「町営塾 kii+」を発展させることも重要な施策と思います。

(4) スポーツ・レクリエーション活動の充実について

コロナ禍により大幅に活動制限されていますが、コロナが終息すれば是非再開して欲しいと思います。

(5) 青少年の健全育成について

近接する国立吉備青少年自然の家とのコラボレーションにより全国的なイベントなどへの参加を推進していただければと思います。

(6) 地域文化の育成について

是非吉備中央町の全ての文化財のデジタル情報化を推進していただければと思います。

最後に、コロナ禍という異常事態の中での事業の推進には、多くの苦労があったと推察します。しかし、令和7年の小学校の統合計画なども控えており、事務の一層の効率化を推進することで今後拡大するニーズに対応できる体制の強化をして欲しいと思います。人材育成には最低でも10年程度の長期的視点での取り組みが必要なことを付記させていただきます。

○元町立小学校長 宇野和行氏

1 学校教育について

学校教育においては、幼稚園、小学校、中学校全体的に充実した環境の中で、落ち着いて学習に取り組んでいる様子が伺え、評価できます。今後においても引き続き、一人一人の園児、児童、生徒に寄り添いながら教育の向上を目指して推進していただきたいと思います。また、学校の施設整備の推進について、小・中学校に学習用タブレット端末を整備するなど、児童、生徒一人一人に対応した教育の推進を行っていることが伺え、大いに評価したいと思います。加えてICT支援員を配置したことでICT機器が有効に機能し、子ども達の学びがより一層深まったと考えられます。

なお、学力の向上については、吉備中央町独自の学力・学習状況調査も行われていることから、基礎の学力、例えば、「読み・書き・計算」、「努力すればできる・あきらめずに最後まで頑張る・自分の思いを伝える」など徹底した指導がなされることが望まれます。

令和7年4月には、小学校の統合が控えており、「22世紀の理想郷（ふるさと）吉備中央町」の実現に向け、より良い教育を目指して取り組むことが大切であり、教育委員会・学校において着々と準備が進められていることは大いに評価したいと思います。

一方、各地区の小学校とそれぞれの地域は、地域の文化的行事や伝統的な行事等と密接に結びついているところがあるため、スムーズに統合が行われるかどうか懸念されるところであります。各地区の公民館や各種団体等と連携を図りながら、統合を押し量っていくことが必要と思われます。特に統合により小学校が無くなる地域においては、統合された小学校との連携がとりにくくなるため、地域の活力が衰退することのないよう特別の配慮が必要であると思われます。

このため、早期に地域の代表や各種団体、公民館等と連携を図るために教育委員会と学校とが一体となり、中心的な役割を担いながら、地域連携の問題点や課題を地域と共有する機会を設けて統合を図ることが大切であると考えます。

次に社会科や総合的な学習の時間の学習では、町内の文化や伝統に触れる学習が充実しており、子ども達の課題解決能力の向上につながっていると考えられ、大いに評価できます。このような取り組みの延長として、道徳教育や総合的な学習の時間にも「郷土

の偉人等に学ぶ」取り組みを各学校で実施することを期待したいと思います。心に残る感動的な道徳の時間や総合的な学習の時間の充実を目指して、子ども達の郷土を愛する心を醸成することが大切であります。吉備中央町には優れた偉人や感動的なお話が伝えられていて、その題材を適切な学年に配置して、郷土の誇りとして未来に伝えることが大切であると考えます。

2 生涯学習について

スポーツ・レクリエーション活動においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止となった事業が多く、評価が低くなった経緯が伺えます。感染防止の観点から致し方ない対応とも考えられます。今後、コロナ禍におけるスポーツ・レクリエーション活動の充実に向けた取り組みはどうあるべきか、検討が必要であります。このまま新型コロナウイルス感染防止の観点から各事業の中止等が長引くと、各組織や活動自体が衰退すること考えられ、大きな課題といえます。

次に、文化財の活用と保護資料の整備・活用については、すでに新たに充実に向けた取り組みが始まっており、今後大いに期待されるところであります。半面、吉備中央町には縄文時代、弥生時代からの歴史的な遺跡や遺物がたくさん出土しておりますが、その殆どが年代や様式等の観点からの正式な学術的調査や整備がなされておらず残念であります。また、歴史的な建造物においては、下加茂の片山邸のように整備された家屋もあり、文化財としての価値も調査する必要があると思われます。同様な建造物として、数十年後には、崩壊の危機にある建物や所蔵品は、調査さえされておらず誠に残念であります。吉備中央町の文化遺産を未来へ継承する意味において、教育委員会としての大きな方向性や方針が必要とも考えられます。この分野では、町職員の中に学芸員資格を持つ者もあり、適材適所の人的活用も期待したいところであると考えます。

VII 終わりに

令和3年度の本町教育委員会事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を実施し学識経験者の助言などを報告いたしました。

新型コロナウイルス禍において、その影響は私たちが想像していた以上のものがあり、今までの常識が通用しないことを認識するとともに、新型コロナウイルス感染症との共存や、新しい生活様式の実効性が必要不可欠となっています。

また、令和7年4月には小学校の統合が控えており、「22世紀の理想郷（ふるさと）吉備中央町」の実現に向けて、より良い教育環境となるよう、今後も教育委員自らが点検及び評価をし、教育委員会を充実させ、学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて具体の事務を滞りなく執行できるよう、引き続き努力したいと考えております。